
盟和産業株式会社

**2026年3月期第2四半期
決算説明会資料**

2025年11月28日



- I 第2四半期決算レビュー**
- II 通期業績見通しおよび
重点課題の取組み**
- III 株主還元**
- IV (ご参考) 売上高の内訳等**

I 第2四半期決算レビュー

決算の主なポイント

- ◆ **第2四半期（中間期）前年同期対比増収・増益、最終損益黒字化**
- ◆ **海外子会社の業績回復基調、グループ全体の利益を押し上げ**
- ◆ **損益面の進捗は、通期連結業績予想値の50パーセント強**

連結業績の概要

(百万円)

11,019 11,121

為替変動影響は軽微
(△50)

■ 2025／3期2Q
■ 2026／3期2Q

原価低減・経費圧縮、
材料費や労務費等コスト上昇分の価格転嫁等

217

72

156

39

110

△45

売上高

営業利益

経常利益

親会社株主に帰属する
中間純利益

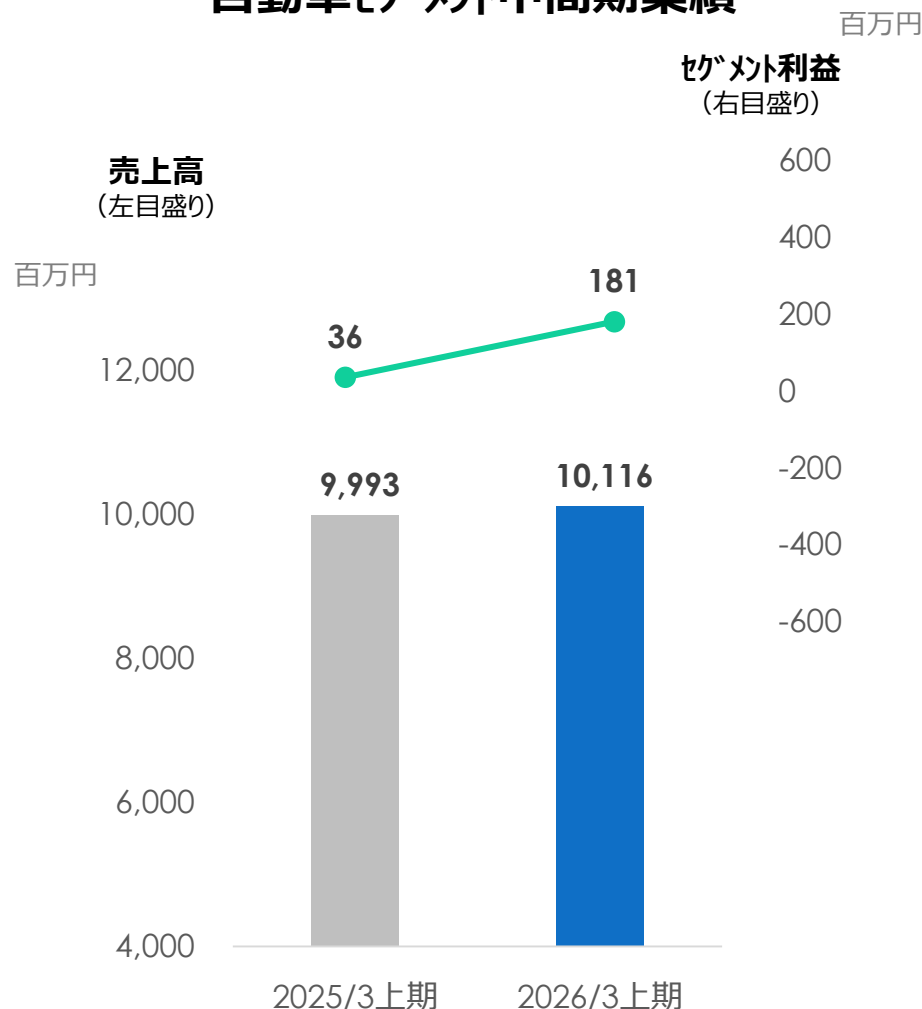
自動車セグメント業績

◆前年同期比増収

認証問題落ち着き、
前期後半に量産開始の
製品が寄与

◆セグメント利益増益

自動車セグメント中間期業績



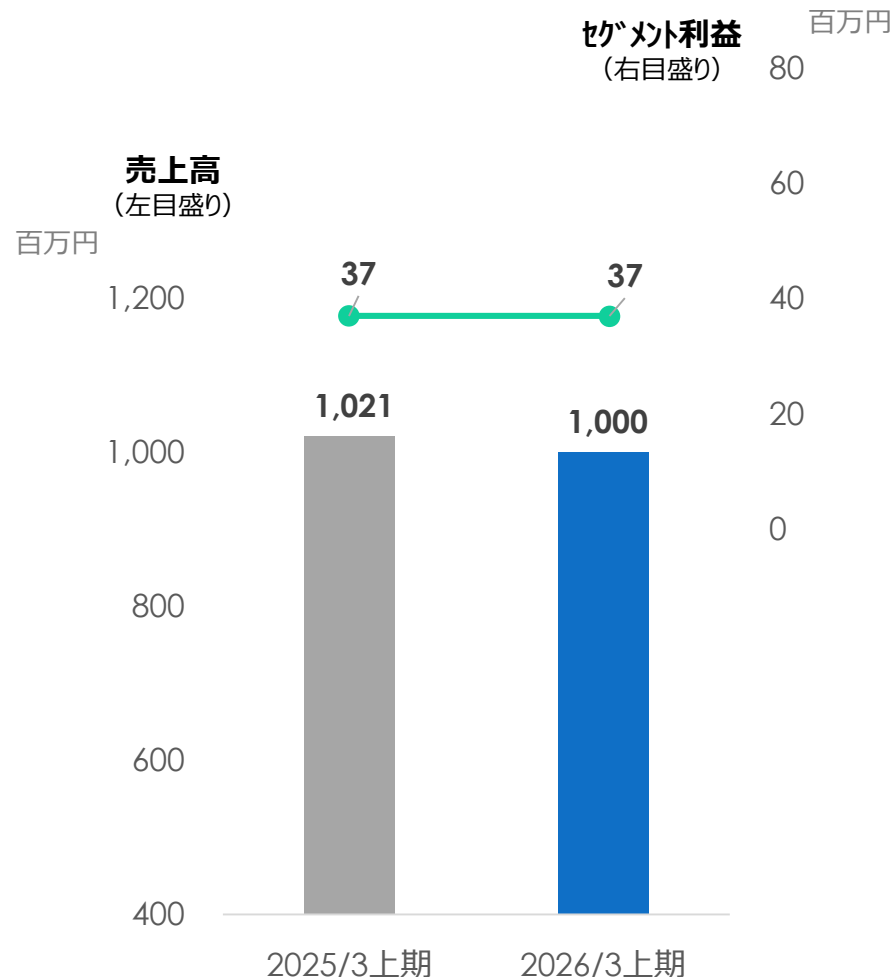
住宅セグメント業績

◆住設資材堅調

住宅設備資材中心に
底堅く推移

◆原価改善・経費抑制 セグメント利益確保

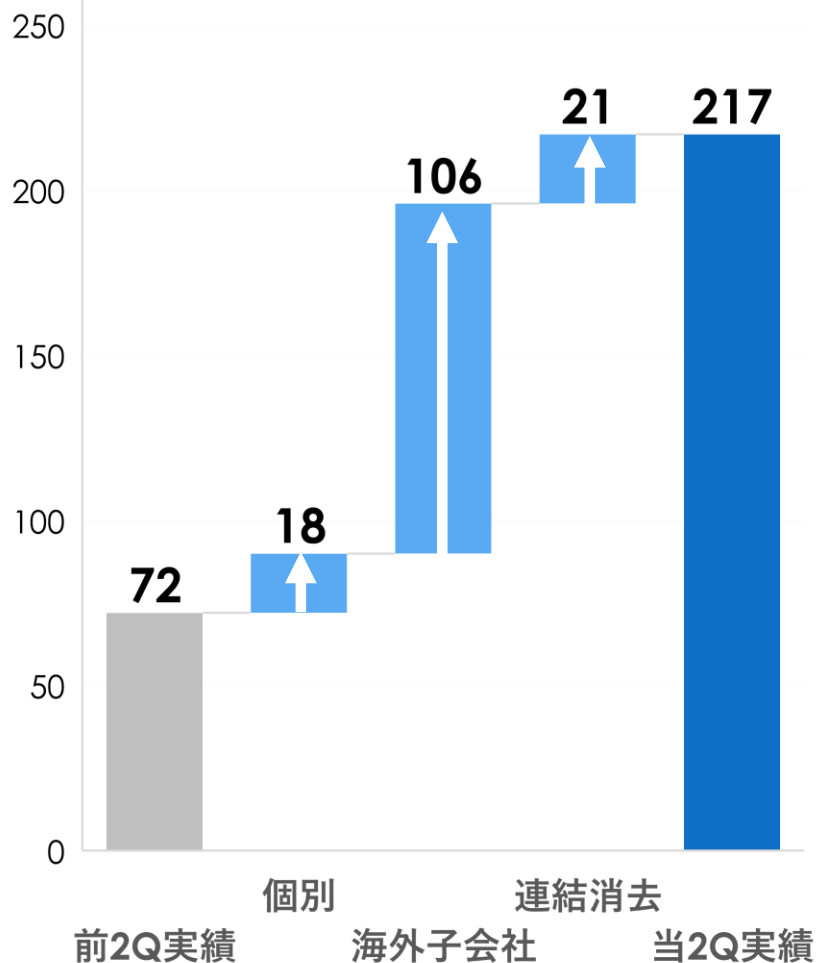
住宅セグメント中間期業績



営業利益増減と海外子会社の状況

百万円

海外子会社の業績回復基調



◆ 中国

- 事業構造改善の効果
- 現地化を進め、現地OEMの受注活動強化

◆ 米国

- 原価低減とコスト上昇分の価格転嫁等により利益改善

◆ タイ

- 受注車種の売れ行き安定、原価低減・経費圧縮により業績安定

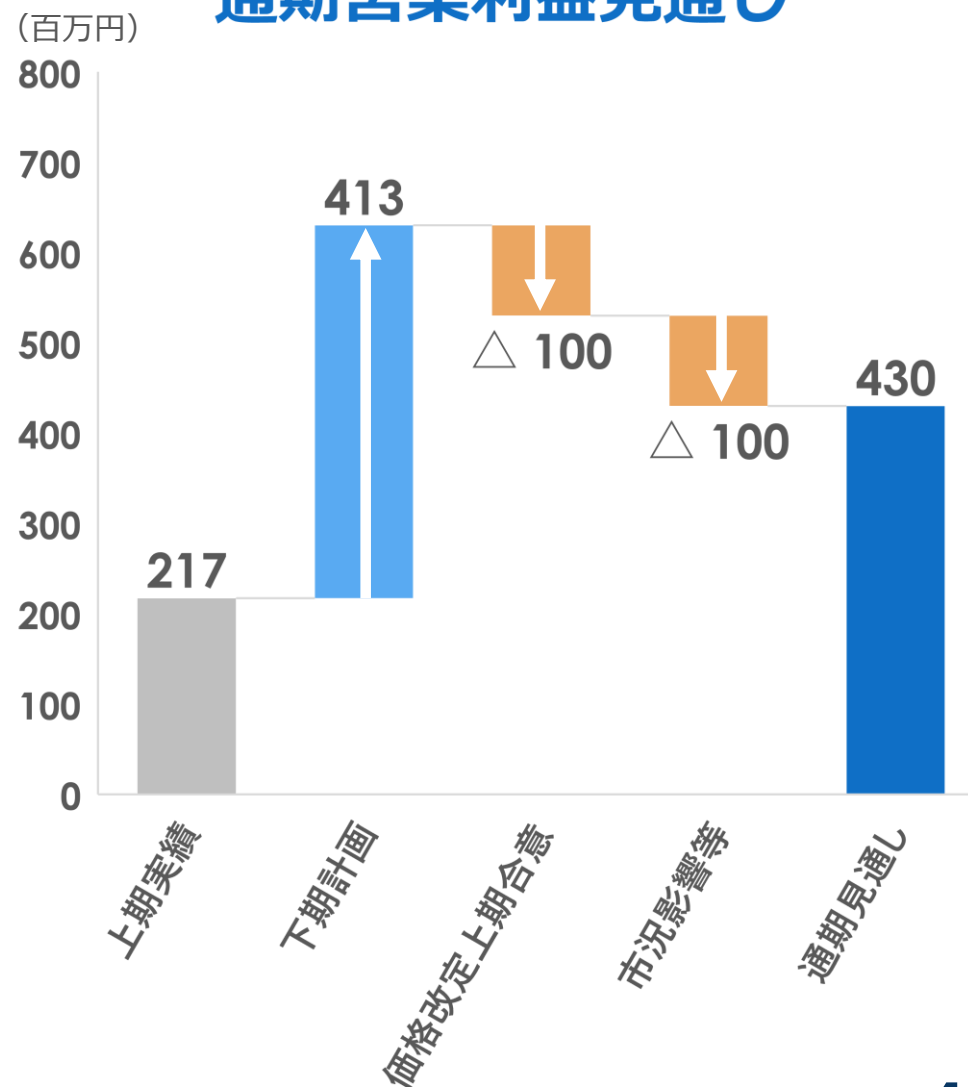
Ⅱ 通期業績見通しおよび 重点課題の取組み

通期業績見通し

5月13日公表の
通期業績予想値の修正無し

	金額（百万円）
売上高	23,500
営業利益	430
経常利益	270
親会社株主に帰属する 当期純利益	180

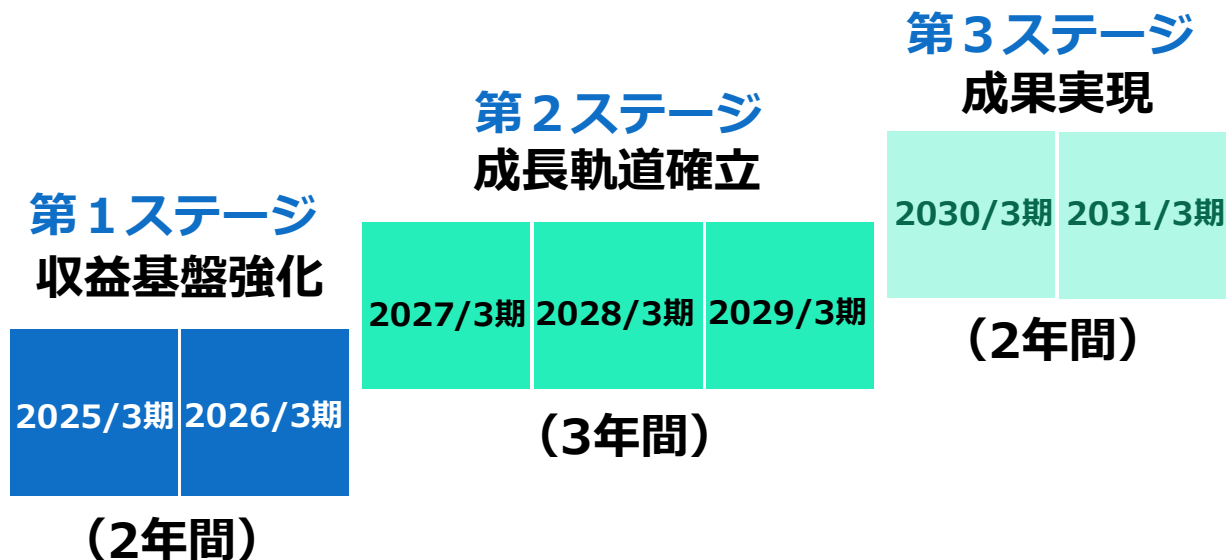
通期営業利益見通し



中期経営計画MWX2030

- 期間 2025年3月期～2031年3月期（7年間）
- 数値目標 売上高270億円/当期純利益9億円/ROE8%以上
- 3段階のステージ

MWX2030



中期経営計画MWX2030の重点課題

	項 目	取組内容（例）	
収益力 強化	取引採算の改善	販売価格の適正化、低採算取引見直し	
	一貫生産体制強化	購入部品の内製化等	
	製造・管理の効率化	省人化・省エネルギー設備導入、DX活用	1
	原価改善	グループ全体での買い方、作り方、運び方改善	
成長戦略	新分野開拓	保有技術を活かした関連分野の開拓	2
	循環型の物造り	CE（サキュラーエコノミー）への対応	
	既存分野拡販	新製品受注、取引シェア拡大、非日系顧客開拓	
E S G 経営	カーボン・ニュートラル推進	2030年までにCO2排出量2013年度比半減	3
	人的資本の拡充	層別人員体制確保、海外拠点技術者の現地化	
	資本コストや株価を意識した経営	株主価値の向上、ROE・PBR等指標改善	

1 自動化・省人化設備導入例

➤ 協働ロボット活用、ラゲージボード 生産設備の省人化

・作業者の省人 2名 ⇒ 1名/直



- ・人の作業をロボット化し、作業工数削減
- ・作業エリアを縮小し、歩行距離を短縮



＜従来＞ 作業者 2 名を配置



＜新工程＞ 作業者半減、1名へ省人化



改善内容

ロボットによる作業の自動化

表皮セット



作業者の歩行距離短縮

製品排出
コンベアの延長

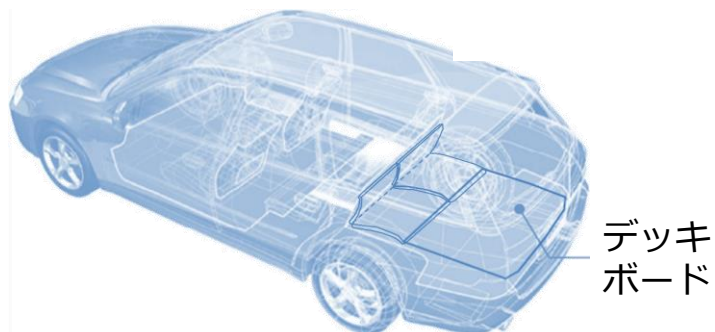
➡ 10m短縮

➤ 循環型の物造り CE（サーキュラーエコノミー）への対応

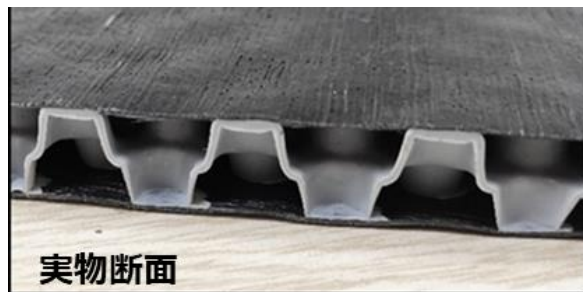
- ・ 熱可塑性樹脂を主原料とした材料構成の為、リサイクルが可能

➤ 新分野開拓 保有技術を活用し、新たな製品を創出

- ・ 既存技術の応用：コア層の厚み増加とガラス繊維の追加で剛性を大幅に向上



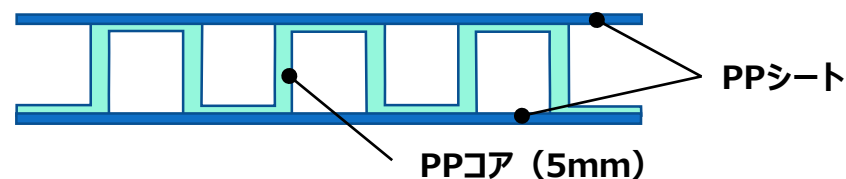
デッキ
ボード



実物断面

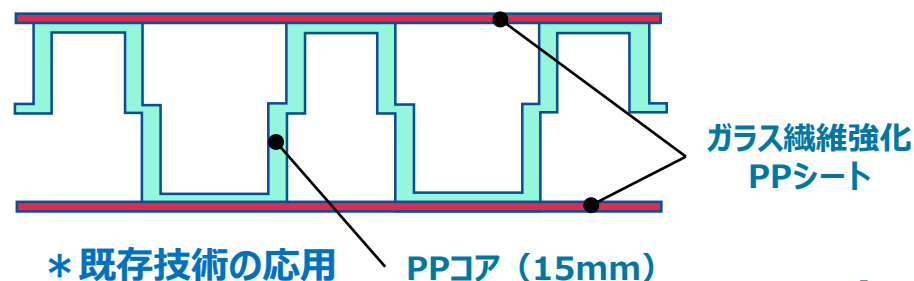
通常
メイトーン

セダン車用 マット部材



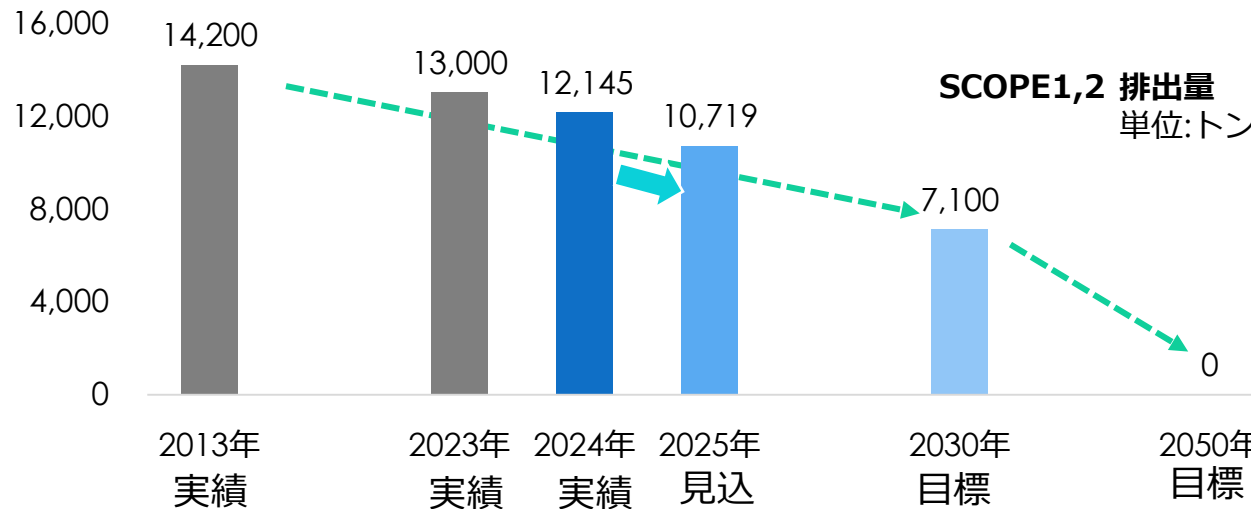
新構造でSUV車用デッキボードへの展開が可能に

GF
メイトーン



3 カーボン・ニュートラル推進

◆目標 2050年カーボンニュートラル達成 2030年度までにCO2排出量2013年度比半減



➤ 2025年度排出量
見込 10,719 t

2013年度対比
25%削減

◆取組 CO2フリー電力へ順次切替 高効率機器への設備更新 省エネルギー活動（電力使用効率化・平準化等）

新技術開発 開発テーマ（例）

NO	分野	開発テーマ	期待する効果	SDGsとの関連
1	自動車 内装部品	顧客とのCE・CN対応製品 共同開発 CN/CE	資源循環	1 2、1 3
2		ガラス繊維強化 PPハニカム構造体 2	資源循環	1 2、1 3
3		デッキボードの競争力強化	コスト競争力	1 2、1 3
4		社内端材リサイクル製品 CN	資源循環	1 2、1 3
5	新分野開拓	廃棄物を用いた資源の有効活用 CN/CE	資源循環	1 2、1 3
6		現有設備を用いた新用途開発 CN	収益拡大	1 2、1 3
7	生産工法	ラゲージボード 新生産設備 省人化 1	省エネ・省人化	7、1 2
8		ハニカムボードのトリム工程効率化 CN	省人化	9、1 2

■ 研究開発費 （技術者の人件費等を含む）

2025年3月期 5.1億円



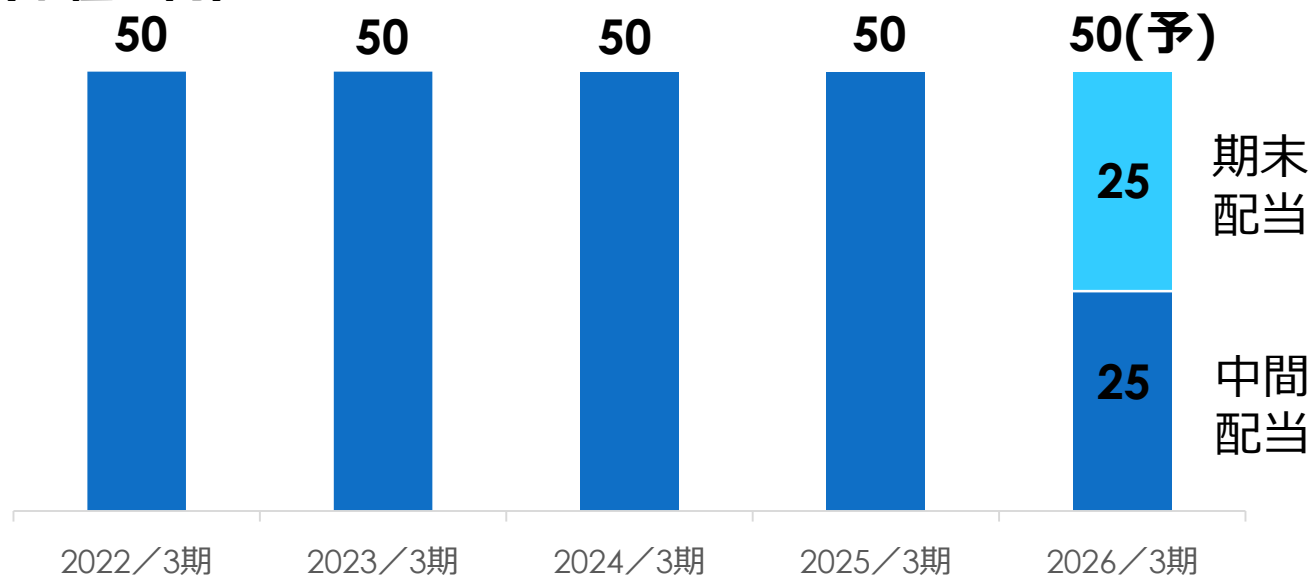
Ⅲ 株主還元

利益配分に関する基本方針

企業基盤強化のために必要な内部留保を確保しながら、安定的な配当の継続を基本に、業績および配当性向等を総合的に勘案して配当を決定

一株当たり配当金の推移

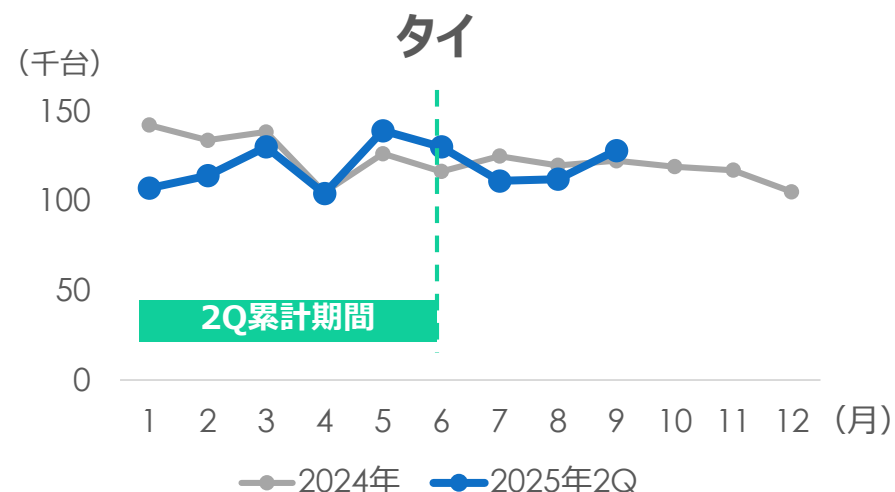
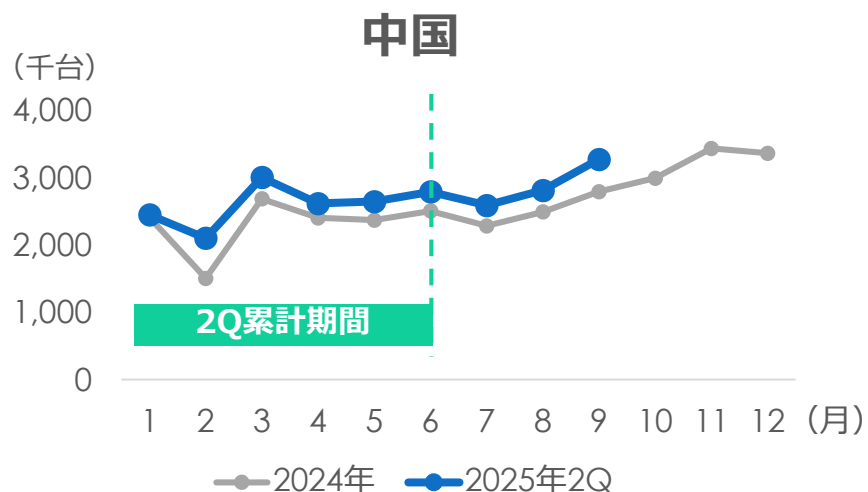
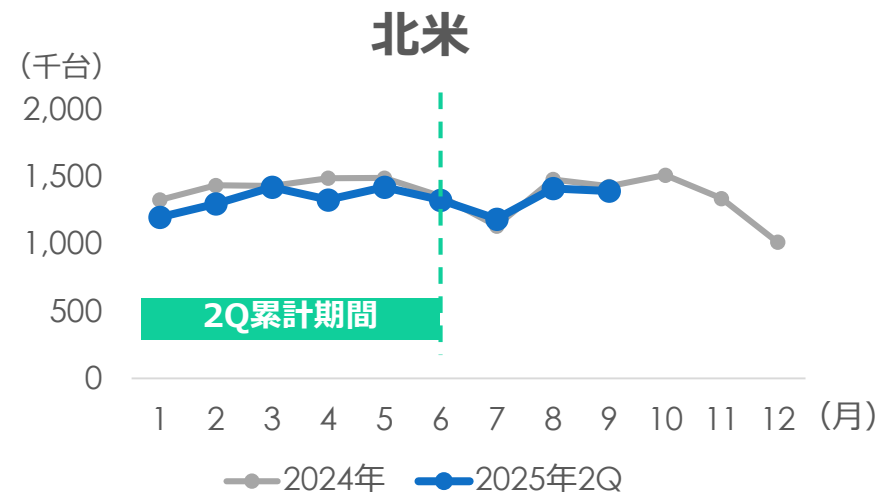
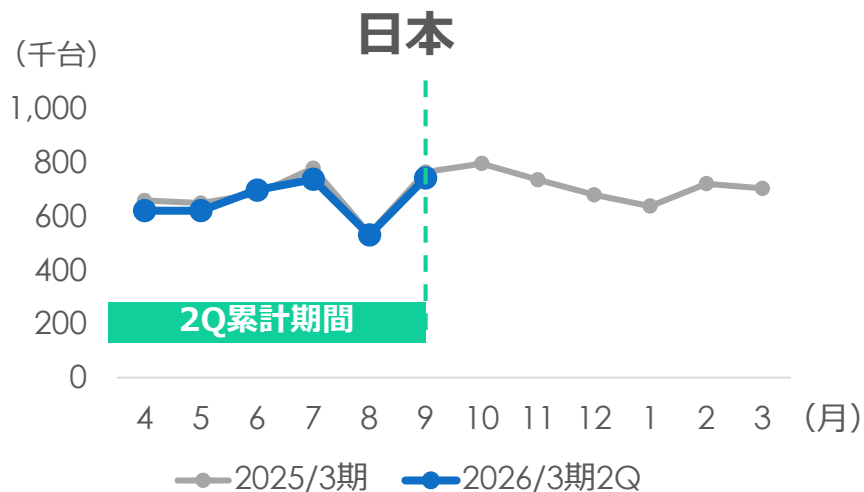
(単位：円)



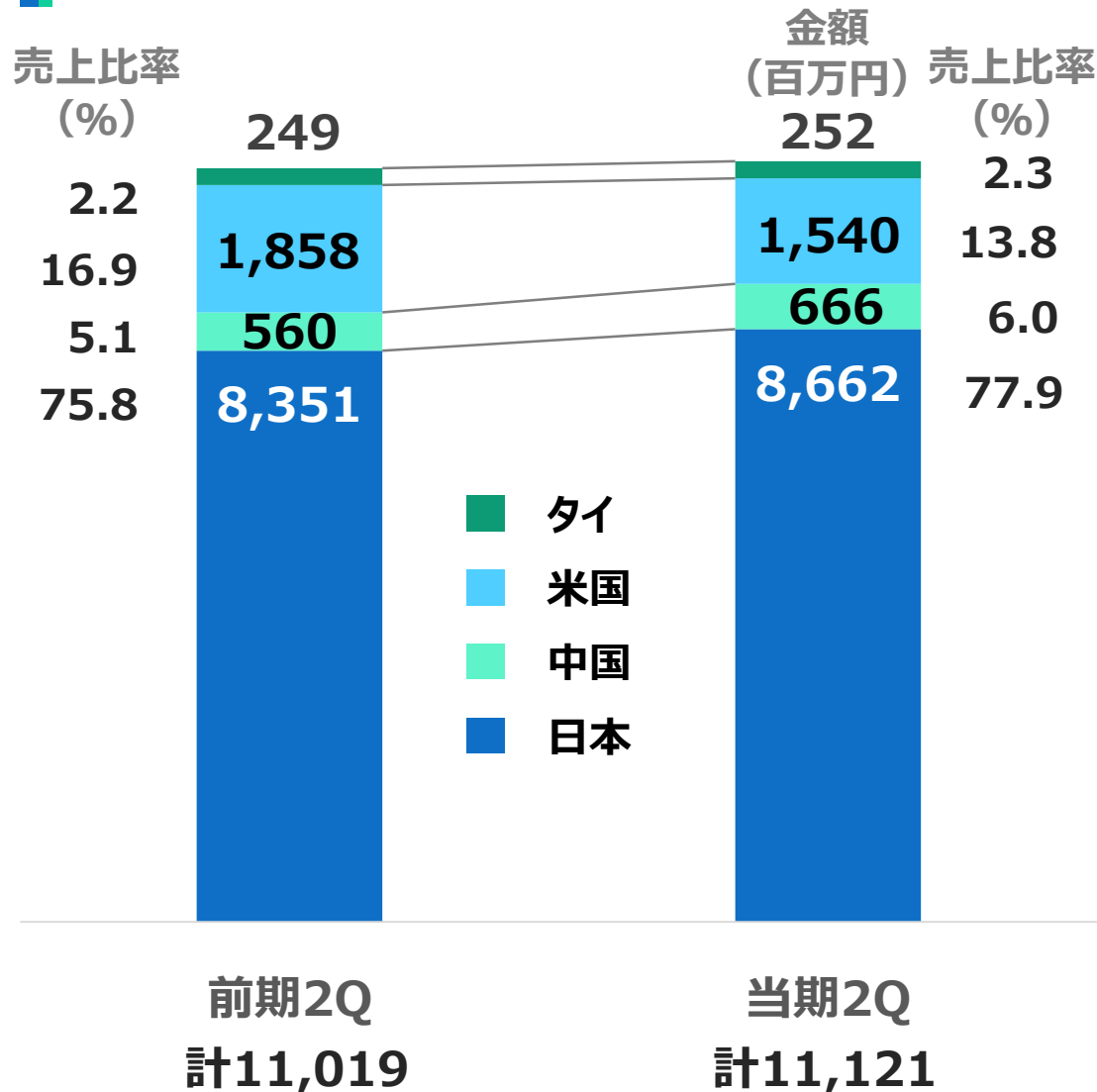
- 2026年3月期は中間配当25円を実施
- 期末配当25円、年間配当50円を見込む

IV（ご参考） 売上高の内訳等

外部情報 自動車生産台数推移（月別）



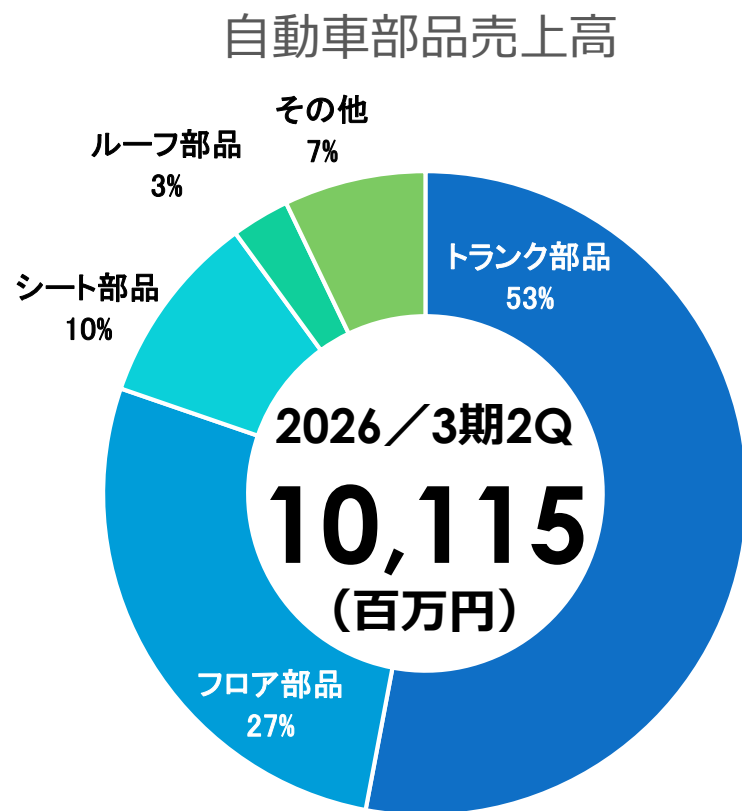
地域別売上高



- 左記は外部顧客に対する売上高
- 海外売上比率22.1%

自動車部品の部位別売上高

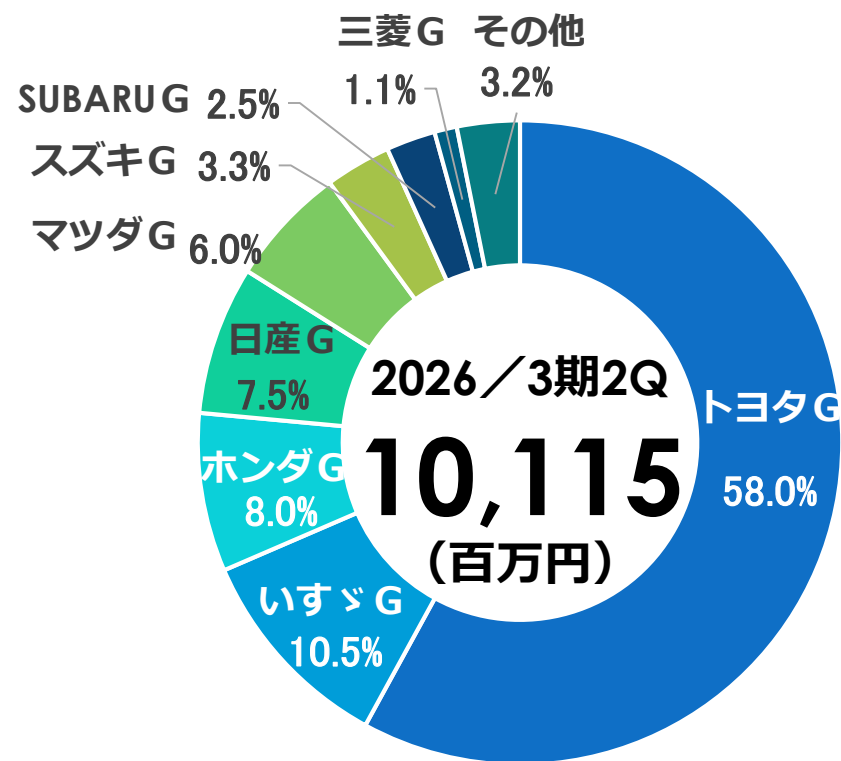
売上構成はトランク部品が約 5 割



	金額 (百万円)	構成比 (%)
■ トランク部品	5,358	53.0
■ フロア部品	2,761	27.3
■ シート部品	979	9.7
■ ルーフ部品	295	3.0
■ その他	720	7.0

自動車部品のメーカー別売上高

自動車部品売上高



トヨタグループ向けが約 5 割 (ダイハツ・日野を含む)

	金額 (百万円)	構成比 (%)
トヨタG	5,863	58.0
いすゞG	1,067	10.5
ホンダG	804	8.0
日産G	754	7.5
マツダG	607	6.0
スズキG	334	3.3
SUBARUG	250	2.5
三菱G	113	1.1
その他	318	3.2

バランスシートの概要

(百万円)

資産合計
24,975



2025/3月末

資産合計
23,496



2026/9月末

流動資産 △ 1,476

現金及び預金 △501
売掛金 △890
商品及び製品 △165

固定資産 △ 4

負債純資産合計
24,975



2025/3月末

負債純資産合計
23,496



2026/9月末

流動負債 △ 825

支払手形及び買掛金 △1,205
電子記録債務 951
短期借入金 △ 303

固定負債 △179

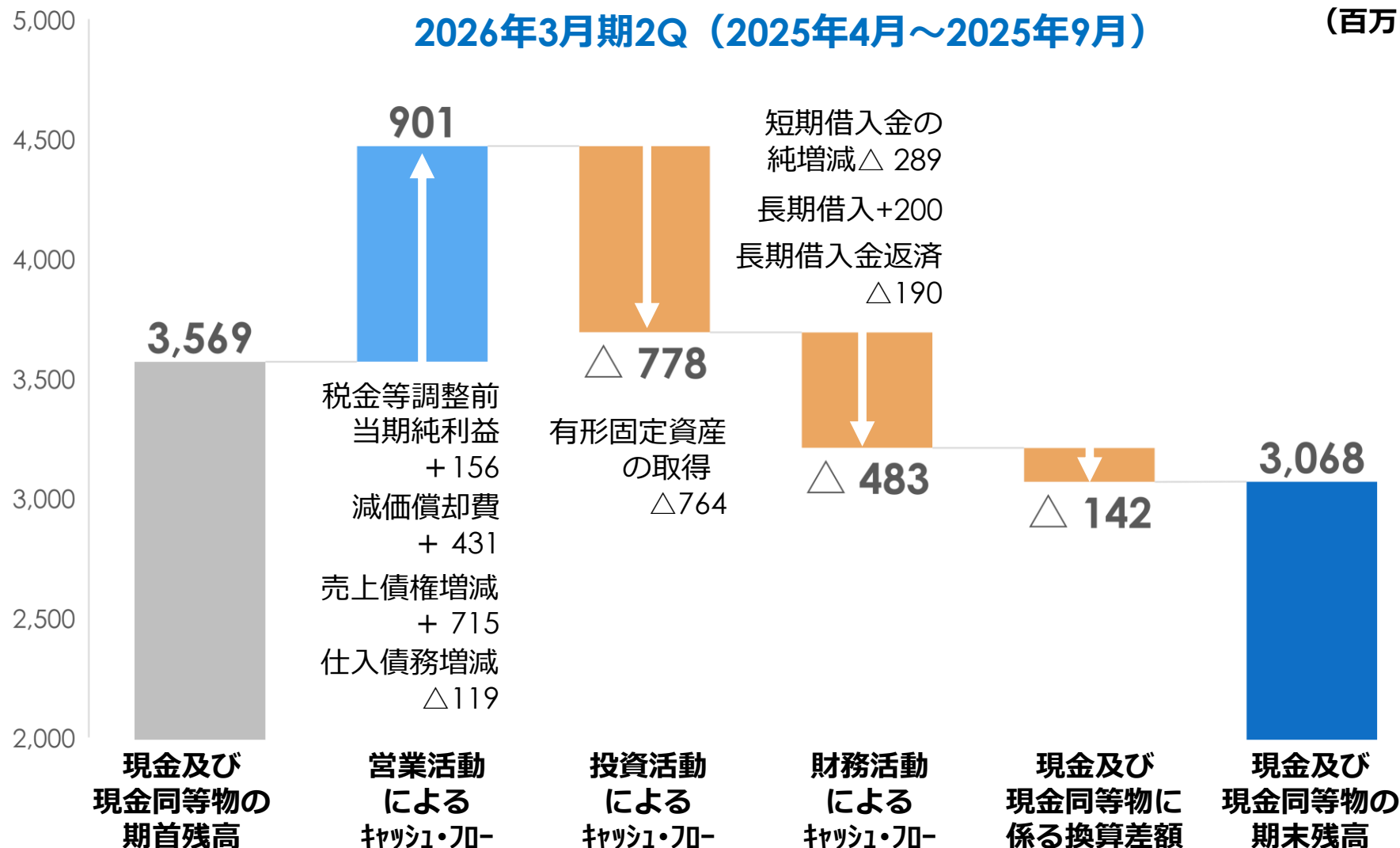
純資産 △474

為替換算
調整勘定 △ 568

キャッシュ・フロー計算書の概要

2026年3月期2Q（2025年4月～2025年9月）

（百万円）



本資料に記載されている将来に関する見通しは、不確定なリスク要因を含んでおります。したがって、実際の結果は様々な要因によって見通しと大きく異なる可能性があります。ご了承ください。

盟和産業株式会社

